

特60

93

赤穂義臣銘々傳記

全

004069-000-0

特60-93

赤穂義臣銘々傳記

松下 鏡之助 / 編

M20

ACE-0406



早水藤左門藤原満亮

元徳和の城へある町人茶屋の番長
 次男を討ち取らんとす。初めは
 術でまよひちりく。初可成候と
 討てて人となる。其の術は
 いふて長蛇の道
 退るの内をみる
 る。まかりて

究せし
 退るに
 せむら
 して念
 して月
 英勇あり



木村右三門源貞行

貞行は
 源氏の
 貞行の
 貞行の
 貞行の

その夜
 一宿

貞行は
 貞行の
 貞行の
 貞行の



貞行の
 貞行の

間喜兵衛藤原充延

先祖の老練の忠告を馬鹿とて聞き
 百石と云ふ家系流の
 流しにまゝ一室中の作
 能くとも統御出来ぬもの
 討つては夜は味方の者よ
 かくもぞ成る事とある
 一室の味方と云ふは
 討つては味方の者よ
 討つては味方の者よ
 討つては味方の者よ



「成程」
 多分
 相成る事
 成程

間重次郎藤原光興

先祖の老練の忠告を馬鹿とて聞き
 百石と云ふ家系流の
 流しにまゝ一室中の作
 能くとも統御出来ぬもの
 討つては夜は味方の者よ
 かくもぞ成る事とある
 一室の味方と云ふは
 討つては味方の者よ
 討つては味方の者よ
 討つては味方の者よ



「成程」
 多分
 相成る事
 成程

間新六郎藤原光風

藤原光風の二男之力を杖群子
 中お世とつらき事
 高直の業とるべき事
 せよ一室他のもよみハ
 良のなき彩葉のとな
 香清うけ負てある津川安
 ちつとつる株酒さるまありとぬる大工職と
 あり入込て青良の中き香清の強固とつて
 大石とて送りぬまより大石欲地の業肉とあら
 うな知るこそ光風の功とるべし一侍入のとたへたまもして
 勇とあつて一人の身用とあつてありけり年三歳
 律世一居のふるさどるるた武士の命とせと名とつて



大石瀬左衛門藤原信清

元々大石の士を東軍流の祖
 大石は遠く坂田の海軍家一使がな
 きたり不斗はこと大石はしと考へた
 ありてお徳の町人盗賊
 大石の父とつて一は及ぶ伝
 こととてはまきつる次の士とる
 こととてはまきつる次の士とる
 盗賊のやるるれども一概に空力
 がある下知らるるまは
 く使者のたことといひか
 述降りて降りるるまは
 大石は遠く坂田の海軍家一使がな
 きたり不斗はこと大石はしと考へた
 ありてお徳の町人盗賊
 大石の父とつて一は及ぶ伝
 こととてはまきつる次の士とる
 こととてはまきつる次の士とる



大石は遠く坂田の海軍家一使がな
 きたり不斗はこと大石はしと考へた
 ありてお徳の町人盗賊
 大石の父とつて一は及ぶ伝
 こととてはまきつる次の士とる
 こととてはまきつる次の士とる

菅谷半之丞菅原政利

↑ 稀代の忠臣としての偉業

行年四十五歳

菅谷半之丞菅原政利の忠臣としての偉業
 肉迫るを思ふも、小使のつとめは、
 近習馬場とて、百平を、
 身まう後妻をむく、
 いまも早あくとよ、
 なりしう、半之丞の忠見、
 忠義の、さなぐ、挑め、
 ま、忠、も、迷、
 判友、忠、忠、忠、
 の、忠、忠、忠、
 そ、忠、忠、忠、
 忠、忠、忠、



菅谷半之丞菅原政利の忠臣としての偉業
 肉迫るを思ふも、小使のつとめは、
 近習馬場とて、百平を、
 身まう後妻をむく、
 いまも早あくとよ、
 なりしう、半之丞の忠見、
 忠義の、さなぐ、挑め、
 ま、忠、も、迷、
 判友、忠、忠、忠、
 の、忠、忠、忠、
 そ、忠、忠、忠、
 忠、忠、忠、

古田澤右衛門藤原兼貞

▲ 忠臣としての偉業

古田澤右衛門藤原兼貞の忠臣としての偉業
 忠義の、さなぐ、挑め、
 ま、忠、も、迷、
 判友、忠、忠、忠、
 の、忠、忠、忠、
 そ、忠、忠、忠、
 忠、忠、忠、



古田澤右衛門藤原兼貞の忠臣としての偉業
 忠義の、さなぐ、挑め、
 ま、忠、も、迷、
 判友、忠、忠、忠、
 の、忠、忠、忠、
 そ、忠、忠、忠、
 忠、忠、忠、

勝田新左衛門源武亮

武亮は勝田新左衛門源武亮の孫にして、
 流浪して波華まほりひまごおと
 ありて父いおのりひまごおと
 くれは花のりひまごおと
 七右の墓末の存はるの
 右たを安せよと、
 流浪して波華まほりひまごおと
 ありて父いおのりひまごおと
 くれは花のりひまごおと
 七右の墓末の存はるの



〆とれも目
 せまでも
 あり

中村勘助政辰

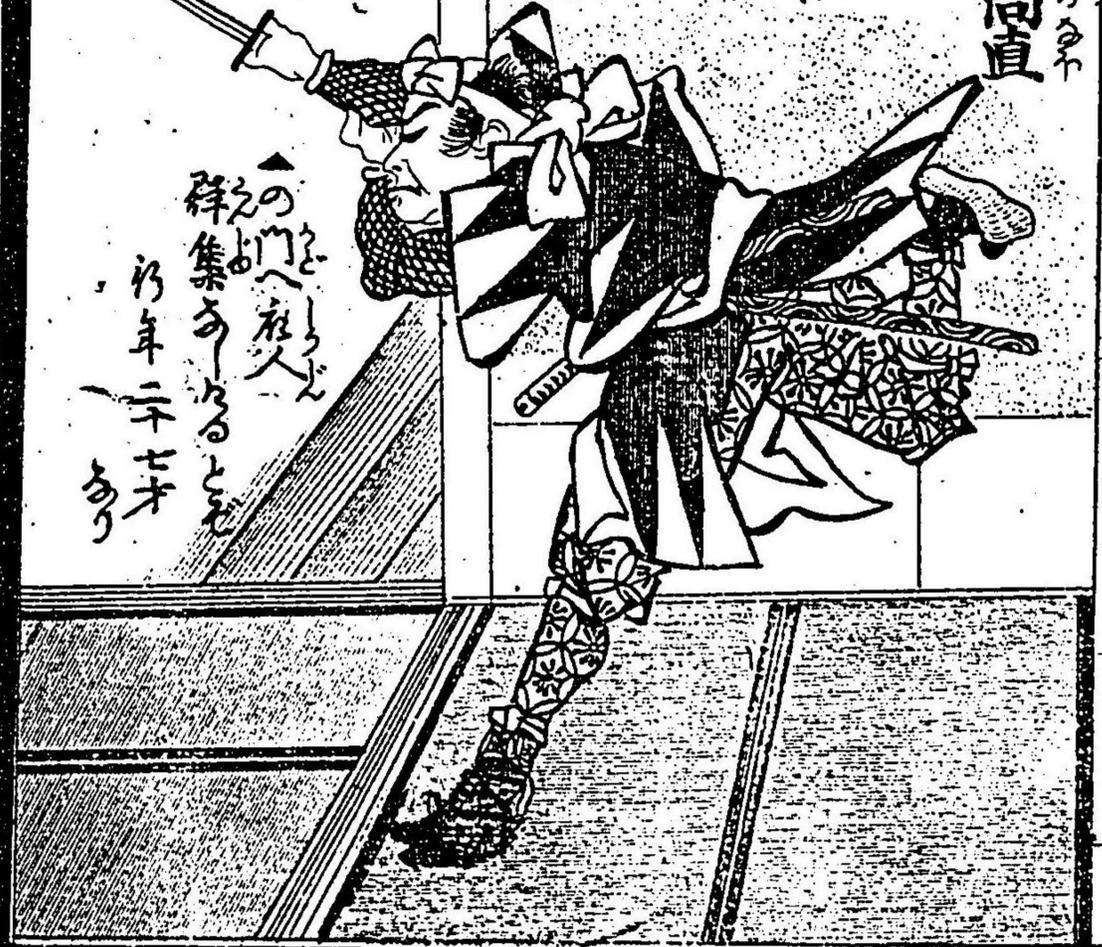
政辰は中村勘助政辰の孫にして、
 赤穂を遺散の後
 大石は志とていふ
 安土浦とていふ
 伏見河をたて人畜る
 大石は志とていふ
 安土浦とていふ



〆とれも目
 せまでも
 あり

村松三太夫藤原高直

同春春まづが椿さるりかたきまを
 強く衣袴よきしよのほろほろよれを
 けう赤穂退治の東船よこりの
 身とあつて復入形を割りせしは
 是より三月十四日の朝研やちたつ
 方よのり新とあつる力のとだせ
 えて空とよとあつるよりのとよ
 とひ切はさしつゝ一何れ
 とひまはさしつゝ一何れ
 べつとつらふちまはつしつとけり
 切つらふちまはつしつとけり
 中とつらふちまはつしつとけり
 枕のちひさしとあつるよりの
 極とつらふちまはつしつとけり



の門へ入
 祥集あつるとも
 け年二十才
 あり

倉橋傳助清原武幸

武幸の中は清原の二十才
 枝村とあつる赤穂退治の
 けう赤穂退治の東船よこりの
 身とあつて復入形を割りせしは
 是より三月十四日の朝研やちたつ
 方よのり新とあつる力のとだせ
 えて空とよとあつるよりのとよ
 とひ切はさしつゝ一何れ
 とひまはさしつゝ一何れ
 べつとつらふちまはつしつとけり
 切つらふちまはつしつとけり
 中とつらふちまはつしつとけり
 枕のちひさしとあつるよりの
 極とつらふちまはつしつとけり



岡島十右衛門藤原常樹

元本猛烈のさうして武勇よき者なり
 今まかりとも手おぬ人杖指せり
 一室滅亡のとき大膽なま流が池
 身を隠すことありれば大膽
 身を安て逃去るるを後有
 猫の隠れまかりのむく途を
 推て知るべし又実におりの商人とあり
 故に入ると動静を伺ひあまの
 中を脱れよと入りおる子候るごと
 貴よ先を滅してはれよされぬ殺の
 者ありと人のひきまをさしつゝおる



さうして人の夜に
 名よ先を滅せり
 ともするごと
 乃年二十九

大高源吾源忠雄

父武勇たよき一武勇の忠臣なり
 中へ世をのり二十有八人持持と
 流るる家滅亡のち本よ
 流るる家滅亡のち本よ
 流るる家滅亡のち本よ
 流るる家滅亡のち本よ



杉野十平次藤原次房

一巻の母の巻
一巻の母の巻

次房の道徳は、金銀を以ては、
る希薄過ぎのち、素朴あり
老身、徳を以て、
とて、
送りたるうち、素朴あり
の道徳も、素朴あり
一巻の母の巻
は、母の巻
は、母の巻
は、母の巻



次房これ、扇され、素朴過ぎ、
は、母の巻
は、母の巻
は、母の巻

矢頭右門七平教兼

一巻の母の巻
一巻の母の巻

先祖を慕う、
は、母の巻
は、母の巻
は、母の巻



は、母の巻
は、母の巻
は、母の巻

